

5th Anniversary

CONTENTS

HAPPY NEWS 2008	2
入選作品発表	
HAPPY NEWS 2008を振り返って	10
私にとっての新聞	11
小山薫堂さん 押切もえさん	
インタビュー 櫻井翔さん	12

しあわせを届ける新聞で HAPPYに!

HAPPY NEWS 2008

4月6日は「新聞をヨム日」。日本新聞協会はこの日に合わせて「HAPPY NEWS 2008」を発表します。新聞を読んだところがあたたかくなった、勇気がふっとわいてきたりするような記事を切り抜き、その理由を添えて応募するHAPPY NEWSキャンペーンも今年で5回目を迎えました。回を重ねるごとに「しあわせ」の数も増え、今回は過去最多の1万749件のHAPPY NEWS記事とコメントが集まりました。そしてこのたび、2008年度のHAPPY NEWS計19件が決まりました。その中大賞に選ばれたのは、「形見のランドセル『僕が背負う』」の記事にコメントを寄せてくれた川野智子さん(大分県)。

HAPPY NEWSでは、19件の作品をご紹介します。この新聞を読んだみなさんにも「しあわせ」が訪れますように。



HAPPY NEWS PERSON 特別賞

「HAPPY NEWS PERSON 特別賞」に朝原宣治さんが選ばれました。

【PROFILE】
1972年生まれ。同志社大学卒業後、大阪ガスに勤務。100以自己記録10秒02は日本歴代2位。五輪は96年から4回連続出場。08年北京で銅メダル獲得。同年9月、現役引退。

2008年は北京五輪の年。活躍を報じた記事とたくさんコメントが寄せられました。その中から、男子400メートルリレーで銅メダルに輝いた朝原宣治さんに、多くの人に感動を与えた人物として「HAPPY NEWS PERSON 特別賞」を贈りました。

【裏のコメント】
受賞を大変光栄に思っております。これからの私の人生における大きなテーマはまさしく、人をしあわせな気持ちにすることです。今回、身近な人ももちろんですが、新聞記事を通して多くの人をしあわせにしたということであれば、これほどの喜びはありません。これからもそんな人であり続けられるように努力していきたいと思っております。





知的障害者雇用を続け半世紀近くになります

日本理化学工業会長 大山 泰弘さん(76)



「忙しくなるけど、頼むね」社員に言葉をかけながら、工場を回る。「ごんには、がんばって下さい」社員からも言葉が返ってくる。明るい職場だ

社員の幸せ 企業が追求

「社員が幸せになれば、企業も幸せになる」と大山会長は言う。社員に「ごんには、がんばって下さい」と声をかけながら、工場を回る。社員からも言葉が返ってくる。明るい職場だ。

文・写真 編集委員 高島伸一

働く喜び あなたもわたしも

私の娘は知的障害と精神障害があります。この娘が共同作業所へ働きに行き始めたころ、この子にできることが少なくて心配ばかりして、「無理して行かなくていいから」と申したことが何度ありましたが、娘

「北海道新聞 2008年9月29日付朝刊を読んで」

北海道新聞 2008年9月29日付朝刊を読んで

川崎 タクシー運転手ら一緒に遠足

障害児乗せてドライブ30年

「楽しい思い出に」 川崎市のタクシードライバーたちが、障害児を乗せてドライブを続ける。30年続いているという。楽しい思い出に。



遠足の活動資金にするための募金箱を手にする長坂理事長 川崎市川崎区

冬の夜空にスマイルマーク

浜本典子さん 41歳(岡山県) 気がつけば、14年の時間が流れていた。3歳の娘と2歳の息子の手をひき、ひとりで育てていくと決めた。あの日、あれからずっと、子どもたちにお父さんのいない寂しさを感ぜさせないよう、私は、家の中を笑顔で満たすことに精いっぱいだった。私が笑うと、子どもたちも笑う。その笑顔が見た

「夜空に笑顔」 月、金星、木星接近 岡山市内で観測された金星(左)、木星(右)と月による「笑顔」=1日午後8時20分



岡山市内で観測された金星(左)、木星(右)と月による「笑顔」=1日午後8時20分

「遠足」の美談に、心晴れ晴れ

益子悦子さん 41歳(神奈川県)



子どもがインフルエンザで幼稚園を休んだ。その日は、年長組後のお別れ遠足の日。高熱を出しながら二階に行きたかったと娘の涙は止まらない。カレンダーの赤い丸、踊るような「えんぞう」の字を見ると、こどもも泣きたくなる。暗い気持ちで朝刊をめぐると、目を飛びこんで来た「遠足」の文字。戦後最悪の不況と戦われる世の中こんな遠足があるなんて、記事を読むと心が打たれる。

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

神奈川県新聞 2009年2月12日付朝刊を読んで

1 + 4 = 5

「特技」で人助け3年

同級生らの自転車修理し続けている高校3年生の東哲之君(二宮高3年)

「特技」で人助け3年 同級生らの自転車修理し続けている高校3年生の東哲之君(二宮高3年)

友の自転車 二宮高3年 東哲之君 無償で修理120台



始めた。「技術者を目指して修理の時間を短くしたかった」と東君。入学当初は二十分しかかっていたタイヤのパンクの修理が、今では五分あればできるようになった。修理を通して「普通なら話しかけなかった友人が増えた。東君は修理代を受け取らない。シールの代金などの費用も「もったいない」とお金のことを嫌う。困っている人を助けてあげたいと、東君は「もういいよ」との東君さん「ありがたいです」と、東君は顔を赤らめて笑った。



子どもを抱きしめたくなくなった

佐藤美智子さん 41歳(青森県)

母親にとって「産んでくれてありがとう」。この言葉ほど、響く言葉はないと思います。私はこの記事の当事者の立田子小(佐々木校長)で、十七日五年生の母が、妊娠時の思い出を共有した。母の涙が、涙を流した。母の涙が、涙を流した。母の涙が、涙を流した。

「妊娠、家族で喜んだ」「逆子直すの大変だった」

田子小・母親が特別授業

「あなたはどうして産まれたか」 児童、涙流し感謝 母親が「出産時の様子」を話し、子どもたちに伝えた。それを聞いた児童は涙を流して、学校で「逆子直すの大変だった」と話した。母の涙が、涙を流した。母の涙が、涙を流した。

北海道新聞 2008年10月22日付朝刊を読んで

北海道新聞 2008年10月22日付朝刊を読んで



INTERVIEW

櫻井 翔さん

新聞で偶然見つけた情報が、とても価値があったりするんです



—新聞は毎日お読みになりますか。
—一般紙と紙とスポーツ紙を毎日読んでます。仕事前のメイク中とかの、スタンプバイしている時間に30〜40分くらいかけて読んでますね。2紙の1面を見くらべて読んでから、それから1紙ずつサーッと読んでいく感じですね。
—えっ!? 2紙の1面を見くらべるんですか。
—はい。3年前から日本テレビの「NEWS ZERO

—「NEWS ZERO」に出させてもらっているんですけど、2007年の参院選でプレゼンターをやらせていただいたときに、政治部の記者の方に教えていただいたんです。一方で大きく扱っている記事も、もう一方では小さい扱いだったりしますし、新聞各社によって論調も違います。だから自分の考えが一方に偏らないように、自分の中のバランスを取るには、最低限、2紙を見くらべて読むことが大事だと。

それ以来の習慣なんです。—「NEWS ZERO」でキャスターを務めることで新聞への見方は変わりましたか。
—そうですね。それまでは「目を通す」感じだったのが、「こまかく読む」ようになったりしましたから。
—ニュースキャスターの仕事というのは、やりがいがありますか。
—はい。責任も感じますね。お話をいただいたのが24歳のときで、こんな青二

才の僕がニュースキャスターをしていいものかと、最初は躊躇しました。でもいまは、僕が「NEWS ZERO」のあの席に座っていることによって、日々のニュースに若い人の意識が向くきっかけになるのから、すごく大きな意味があるなと思っています。実は、僕自身、ニュースを強く意識したのは、あの9・11の同時多発テロがきっかけだったんです。いったい何が起きているのか、



なぜこんなことが起きたのか、何も分かりませんでした。世界情勢や民族紛争について、自分がいかに不勉強かということを知り知らされたんです。
—同時多発テロは櫻井さんが大学生のころですか。
—はい。大学2年のころです。それ以来、すすんで読むようになったんです。分からない言葉に出合っても、読み続けるうちにいつか分かるだろうって気持ちで読んでいましたね。
—新聞は「発見」が詰まっている
—新聞だけが持つよさとは何だか思っています。たとえばネットは、自分が欲しい情報を探すにはとても便利ですよ。自分が知りたいことを深く知るといふ面では、ほかにもいろんなメディアがあるとあります。でも新聞は、紙面を開いてまた見つけた情報がとても価値があったりするんですよ。知ろうとも思っていなかった情報に偶然接することで、自分の世界が広がることがある。それが新聞の素晴らしところだと思っんです。何て言うんだろう……つまり、新聞には「発見」がたっぷり詰まっています。

—確かにそうですね。それから新聞って、小さなノンフィクションを読んでいるような気持ちになる記事もたくさんありますよね。人間にスポットを当てた記事なんか、ちょっと心があたたかくなって、ときどき感動してしまいます。
—お話を聞いてみると、櫻井さんは新聞がとても好きみたいですね(笑)。
—何て言うんだろう、原風景、原体験っていうか、朝新聞を広げている親父の姿というのがあって、僕がそれが当たり前だと思ってましたから。それが僕の中で親父観なんです。

—記事を読んで泣いたりすることも。
—いや、涙したことはあまりないです(笑)。
—同世代新聞があったら
—もし櫻井さんが新聞社の経営者だったとしたら、どんな新聞を出してみたいと思いますか。
—うーん……(と考え込んでから)。「Shingoo(しんごう)」というラッパーの方の「同じ文化の違う世代よりも、違う文化の同じ世代」という言葉が好きなんですけど、世代的横軸で切った新聞があったら面白いと思いますね。20代なら20代のための新聞で、世界中の20代が同じ記事を読むんです。かなり現代的には難しい夢物語だとは思っんですけど。
—でも、それが実現したら文化や宗教の違いで起きる紛争も防げそうですね。そうかもしれないですね。日本って島国ですから、なかなか多様な価値観に触れないと思っんです。僕自身、いろんな価値観に触れたいなと常日ごろ思っているの、そんな世界中の20代だけが読む新聞があったらいいなと思っんです。

「PROFILE」
歌手/キャスター。
1982年生まれ。嵐のメンバーとして、映画、テレビ、CMなどで幅広く活躍。2007年からはニュース番組「NEWS ZERO」でキャスターを務めているほか、08年北京オリンピックでは日本テレビのメインキャスターに抜擢されるなど多方面で活動の場を広げている。



春の新聞週間特設サイト
見えないものが観えてくる。
IT企業社長のインタビュー記事はこちら
<http://www.readme-press.com/46/>
ケータイはこちら↑